厨二病患者の基地外的思想

破壊神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
厨二病患者の基地外的思想

【Ｎコード】
Ｎ０７１３Ｚ

【作者名】
破壊神

【あらすじ】
この作品は、このサイトで初投稿となるいわゆる処女作です。
初心者による作品ですが、楽しんでいただければ光栄です。
ちなみに、この作品はエブリスタ様にて投稿した作品の改訂版です。

※この作品はフィクションであり、実在の人物・団体・事件などとは一切関係ありません。

プロローグ（前書き）

はじめまして、作者の破壊神です。
この作品をお読みになりありがとうございます。
これから、頑張って行きますのでよろしくお願いします。

プロローグ

現代、というか、地球上には存在しないような、例えば、別の世界と比喩していいような、全てが白や黒が入り乱れる空間、いわゆる灰色の空間の中に一人の青年が立っていた。

そこで、青年は語り始めた。

俺は死んだらしい。

突然、こんなことを言うのは可笑しいだろうが、もう一度言う…俺は…死んだらしい……

なぜ、このような事になったのかは、時を遡る事になるが、聞いてくれ。

〜回想〜
3時間前

その日、俺が組んでいるバンドの練習をし、練習が終わった時の事であった。

練習をしているライブハウスは、自分の自宅から自転車、電車の移動手段を用いて、約1時間30分もかかる。

自宅は山に囲まれた田舎にあるため、地元にはライブハウスなどない。

いま、俺が居るような県庁所在地であるような都市部に行かないとない。

そのため、電車代などもバカにならないため、せっかくだから、遊ぼう。という流れになった。

建前は置いといて、俺自信、ぶっちゃけるとただ、遊びたかっただけなんだが…

そんなこんなで、自分のＣＤショップで好きなバンドのＣＤを見たり、アニ〇イトでお気に入りの今期アニメのグッズなどを購入したり、と今の時間を楽しんでいた。

しかし、運命と言うのは時に残酷なものだ。

バンドメンバーと共に夕食の為に、比較的安価で食事の出来るファミレスに向かう為、徒歩にて移動の最中だった。

その時間は、帰宅ラッシュの為か、道路は渋滞をしていた。

それを歩道から、メンバー達と会話をしながら、眺めていた。

歩道者側の信号が青になった為、横断歩道を渡ろうとしたら、普通車がこちらに猛スピードで向かって来た。

始めは、その普通車との距離は約２００メートルぐらい離れていたため、あまり気にしなかった。

しかし、お互いの距離が５０メートルぐらいに差し掛かると、流石

に違和感を感じた。

その時、普通車に目を向けると周囲の建物の光で照らされていたので、運転手の顔が見えた。

良くみると、居眠り運転をしていたようだった。

これはマズイと思いったら、俺達と同じく横断歩道を渡っていた人々の中の一人が、「早く渡れっ！」と叫んだ。

周りの人々は歩道へ向かって走りだす中、幼い少女。文字通り、幼女が一人横断歩道へ取り残されていた。

普通車は、横断歩道の目の前まで迫っていた。

俺は、その幼女へ哀れむ目を向けていた。

こんな幼い少女が命の危険にさらされているのか、それに、普通車の出すスピードを見ていると、助かりはしないだろう。

と、思っていた。

そんな事を考えていたら、自分の体が突然動いていた。

（あるぇー？　なんで横断歩道に近づいてるの？）

自分自信の思考とは別の“なにか“に操られてる感覚だ。

なんというか、現実味のない感覚が俺を襲った。

「おい！君！！なにをやってるっ！？」

「なにをやってるんだよっ！お前っ？！危ないぞっ！」

周りの人々やバンドメンバーからの声だろう。

絶えず、周りの人々の声がするが、思考がボンヤリとしながら、それでも横断歩道に残された少女の元へ行く。

普通車との距離が１０メートルに差し掛かった頃、俺は少女の目の前に着いた。

今だに、ボンヤリとしながら少女の表情を見ると、笑っていた。

普通、というか、だいたいの人はこの状態を怖がるだろ？しかし、少女はだいたいの人に当て嵌まらないみたいだった。

そして、俺は少女を突き飛ばし、少女の変わりに普通車に轢かれた。

轢かれた時、上空へ跳んだ。そんな中でも少女から目を離さなかった。

否、離せなかったのだ。

そんな中、今だ、笑みを絶やさない少女…。

（これは、シュールな光景だなぁ。）

と考えながら、俺が、俺達が見ていた夢がここで終わるのだろう。

と思った。

ドンッ！

頭から地面に着地したようだ。

尋常ではない痛みが俺を襲う。
痛みに襲われながら、自分の家族、夢への思い、二次元に住まう我が嫁や子、孫達、そして、自分が助けた少女の事を考えた。
たが、周りの人々の声がする。
「だ、大丈夫かっ？」
「誰かっ！救急車を呼べっ！」
「おい、おい！しっかりしろよっ！」
うん、なに言ってるかわかるが、言葉を認識できない。俺、死ぬな…。
と思った。
そんな中少女が近づいてきた。
少女は口にした。
「さあ、始まるよ。貴方の物語が。」
「えっ？」
「また、逢おうね。」
そこで、意識が途切れた。
以上が、俺が死んだ理由だ。
長すぎてしまったが許して下さい。

ところで、ここはどこだろう？

プロローグ（後書き）

うむ…、こんな物でいいかな？

話の内容からに、いわゆる転生物です。←メタ発言

プロローグは二話に分けます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0713z/

厨二病患者の基地外的思想

2011年12月2日20時57分発行